

チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2025年5月NO.58

SMILES

<https://www.childfund.or.jp>



地域の人々と一緒につくる「子どもにやさしい学校」

ネパール学校建設プロジェクト 6年間の歩み

ChildFund
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。

地域の人々と一緒に作る「子どもにやさしい学校」

ネパール学校建設プロジェクト 6年間の歩み



ネパールで2018年より
行ってきた校舎建設プロジェクト。
シンドウパルチョーク郡、ゴルカ郡で、
6つの校舎建設とともに、先生への能力
強化研修なども行ってきました。今回の
特集では、一連のプロジェクトを振り返
り、特に、この3年間取り組んできた
ゴルカ郡での支援についてお
伝えします。



始まりは2015年のネパール大地震

「地震は本当に怖くて、世界は終わってしまうんだと思いました。」

2015年に発生したネパール大地震。当時、11歳だったアグレジャは、地震発生時の気持ちをそう語りました。マグニチュード7.8の未曾有の巨大地震。支援地域のシンドウパルチョーク郡では、ほとんどの学校が全壊・部分的損壊の被害を受けました。

チャイルド・ファンド・ジャパンは、すみやかに緊急支援を行い、食糧支援などとともに、学校再開のための仮設教室建設などを進めました。全32校で、60棟120教室の仮設教室を建設し、合計2,401名の子どもたちが通うことができるようになりました。2016年6月からは、損壊した校舎の修復・

再建にも着手。2017年の9月までに、14校で35教室を修復し、40教室を再建しました。



仮設教室で授業を受ける子どもたち

シンドウパルチョーク郡で本格的な校舎建設プロジェクトをスタート

2018年、チャイルド・ファンド・ジャパンは、外務省NGO連携無償資金協力の助成を受け、より本格的なインフラ支援に着手。学校の防災能力を高める支援もあわせて行う「災害に強い学校づくりプロジェクト」をスタートさせました。

2018年の第1期では2階建て6教室の校舎を建設。第2

期では3階建て12教室、第3期では2階建て8教室の校舎を建設しました。いずれもネパール大地震後につくられた国の新しい耐震基準に合致したもので、子どもたちが安心して学べる校舎です。

校舎建設とともに、防災の研修やハザードマップづくりな

ども実施。地震が多い国であるにもかかわらず、これまであまり行われていなかった避難訓練も取り入れました。

この中で特に困難を極めたのが、2019年12月スタートの第2期のプロジェクト。2020年春から猛威をふるった新型コロナウイルスの影響です。順調に整地作業などが進む中、2020年3月に全国的なロックダウンが実施され、建設作業も完全にストップ。避難訓練などの活動も行えない状況が続きました。

先行きの見えない状況の中、スタッフにも不安と焦りが入り混じっていましたが、幸い、比較的感染リスクの低い建設作業は早期に規制が緩和され、作業を再開することができました。防災研修などは、マスクをつけ、参加人数を制限

しながら、少しずつ実施。工夫しながら、なんとかプロジェクトを完遂しました。



すごろくのようなゲームを使って、楽しみながら防災について学びました

新たな地域ゴルカ郡でプロジェクトを継続

2022年からはプロジェクトの支援地域をネパールのゴルカ郡へと移行。人口の約65%が社会的に弱い立場に置かれた少数民族などで構成されている地域で、特に、「ダリット」と呼ばれる、カースト制度に属さない、不可触民とされる人々が多く暮らしています。

学校教育も様々な課題を抱えており、例えば、小学校5年生までに学校を辞めてしまう子どもは、およそ5人に1人。ゴルカ郡での第1期プロジェクトで建設を行った学校では、教室数が足りずに1つの教室に複数の学年の子どもが混在した状態で授業が行われていたり、照明がなく暗い教室で勉強

をせざるを得なかったりする環境でした。さらに、トイレは水道が通っていないために、近くの水源まで学校の職員が水を汲みに行かなければいけない状況で、そのために掃除や排水が充分にされていない状況でした。

ゴルカ郡のプロジェクトでは、こうした教育環境を改善することを通して、少数民族などの子どもたちの未来を守ることを目指し、「少数民族などの子どもの未来を開く 子どもにやさしい学校づくりプロジェクト」と命名。第1期では3階建て9教室の学校を建設しました。

ゴルカ郡での第1期のプロジェクトの校舎のビフォー&アフター



子どもにやさしい学校づくり

ゴルカ郡のプロジェクトでは、従来の防災研修を発展させ、「子どもにやさしい学校づくり」の研修を行いました。先生が一方向的に指導するスタイルから、子ども主体の授業へと移行させ、子どもたちが楽しく学び学力を向上させることを目的としました。また、学校内での差別や暴力をなくすための研修も行い、参加した先生からは「自分も低いカースト出身であり、子どものとき先生から差別的なニックネームで呼ばれたりした。こういった研修はとても有意義だと思う」といった声が聞かれました。

教員経験のある東京事務所スタッフも研修講師として参加



災害に強い学校づくりプロジェクト @シンドウパルチョーク郡



第1期

2018年



第2期

2019年



第3期

2020年

2021年



校舎建設と防災研修をセットにしたプロジェクトとしてスタート



コロナ禍でのマスクをしながらの研修



水道の支援は感染予防にも

新たに取り組んだ女の子支援

ネパールでは女の子に関する課題がまだまだ顕著で、例えば、いまだ3人に1人の女の子が児童婚をしています。また、生理がタブーとして扱われ、正しい知識が教えられておらず、貧困地域では生理用品が手に入りにくいことも課題です。現地では「使用済みの生理用品を丸めてトイレの壁に挟んでいる様子が散見された」といった話もあり、ゴルカ郡の第2期のプロジェクトからは、女の子の生理に関する支援も取り入れることとしました。

生理用品の配布とともに研修を実施。適切な月経衛生管理について伝えました。現地では、配布する生理用品セットのことをDignity kitと呼んでおり、まさに女の子の尊厳(Dignity)を守る支援になっています。



生理用品セットを手にする女の子たち

Voices from beneficiaries

「子どもにやさしい学校づくりプロジェクト」第3期の地域から、子どもたちや地域住民の声をご紹介します

「2015年の地震から9年間の間、仮校舎で授業をしていましたが、この度、新校舎を建設いただき、学校の職員一同、感謝いたします。新しい校舎においても、質の高い学習環境を整え、子どもの意欲向上に努めてまいります。」



副校長先生

「新しい机、照明、扇風機などがあり、とても嬉しいです。新しい学校が気に入りました。ここで勉強できるのが楽しみです。新しい校舎を建ててくれた皆さん、ありがとうございました。」



5年生の男の子

「2015年の地震で学校が崩壊してしまい、仮校舎で授業を受けていました。新しい校舎で、より質の高い授業を受けられるのが楽しみです！」



9年生の女の子

プロジェクトの6年間

子どもにやさしい学校づくりプロジェクト @ゴルカ郡



第1期

2022年



第2期

2023年



第3期

2024年

2025年



子ども主体の授業づくり研修をスタート



生理に関する支援も実施



6年間のプロジェクトが完了

プロジェクトが変えた地域の意識

プロジェクトを進める上で大切にしていたことのひとつが、地域の参加です。例えば、プロジェクトの視察の際に、定期的に地元行政の職員を呼んでプロジェクトに対する意識を高めてもらうようにしてきました。特にこうした取り組みが功を奏したのが、ゴルカ郡でのプロジェクトの第1期。地元行政が「子どもにやさしい学校」づくりの研修に大いに共感し、予算を確保して、プロジェクト終了後も自主的に研修を行うことが決定しました。プロジェクトが単年の活動から、将来にわたって波及していった瞬間でした。

プロジェクトの
打ち合わせにも
地元行政が参加



2025年、フィリピンで外務省の助成によるプロジェクトをスタート！

2019年から続いてきた一連のプロジェクト。外務省の助成に加え、皆さまのご支援もいただき、校舎建設は一定の目処をつけることができました。あらためまして、皆さまの温かいご支援に深く感謝申し上げます。

チャイルド・ファンド・ジャパンは、2025年度より、同じ外務省の助成金を受け、今度はフィリピンでプロジェクトを実施します。支援対象地域は、フィリピン南部ミンダナオ島の南ダバオ州。ネパールの支援地域同様、少数民族が多く暮らす山間地域です。

地元行政の少数民族代表も
会議に参加し、地域と連携した
プロジェクトを立案



プロジェクト内容もネパール同様、インフラ建設によるハード支援と地域住民のエンパワメントなどのソフト支援の両輪。具体的には、地域に医療施設を建設し、医療機材を提供するとともに、地域住民への健康教育を行っていきます。少数民族の子どもたちを含め、地域のすべての子どもたち、住民が、保健医療へアクセスできるようにしていきます。

ぜひ引き続き、プロジェクトを見守っていただけますと幸いです。

近藤健介選手 成績連動型 寄付レポート



福岡ソフトバンクホークス
近藤健介選手

2 2024年、成績連動型寄付（ホームランとヒットとの数に応じてご寄付額を決める形式）でご協力くださったソフトバンクホークス近藤健介選手。ここでは、ご寄付のお話をいただいてから感謝状贈呈式までの様子をお伝えします。

パ・リーグMVP、首位打者、外野手ベストナインなど、2024年、輝かしい成績を残された近藤健介選手。日本球界屈指の選手である近藤選手が、私たちチャイルド・ファンド・ジャパンへのご寄付を考えてくださったのは2024年3月でした。ソフトバンクホークスでは、これまでも柳田選手や和田投手など、多くの方がNPOへの寄付などで社会貢献をされていて、今回、縁あって近藤選手はチャイルド・ファンド・ジャパンを選んでくださいました。

お話をいただいたときには、団体内のプロ野球ファン職員を含めて、大盛り上がり！事務所内にホワイトボードを設置して、近藤選手の日々のヒット、ホームランの数を記録するほどでした。8月には、スリランカのクリケットチームの子どもたちからの、応援メッセージ入りバットもお届けしました。

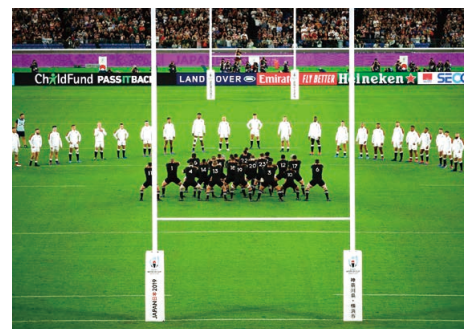
最終的には、ヒット148本、ホームラン20本を記録し、ご



感謝状を手に、支援への思いを語る近藤選手

寄付額は348万円に。2025年2月には、職員が宮崎キャンプへ伺い、感謝状贈呈式を開催しました。新聞社やテレビ局が多く集まる中、感謝状の贈呈とともに、インタビューもさせていただき、「成績連動型寄付が、試合へのモチベーションになりました。自分が打てば子どもたちが救えるという気持ちでした」と、その思いを聞かせていただきました。練習の合間を縫っての短時間の面会ではありましたが、近藤選手の温かく、誠実で、なおかつ気さくなお人柄がとてもよく伝わってきました。さらには、贈呈式の前に、王貞治会長にもお目にかかることができ、チャイルド・ファンド・ジャパンにとっては、大興奮の一日でした。

実はチャイルド・ファンド・ジャパンは、スポーツとたびたび良いご縁をいただいています。例えば、元読売ジャイアンツ篠塚和典さんは、チャリティゴルフをたびたび開催してくださってきました。また、ラグビーワールドカップ2019日本大会では、チャイルド・ファンドが公式チャリティパートナーに。さらに、コロナ禍には、サッカーの香川真司選手、岩渕真奈選手が、子どもたちへメッセージを届けてくださいました。



ラグビーワールドカップの様子

スポーツと国際協力。交わりの少ない異なる分野かもしれませんが、だからこそその相乗効果、広がり生まれるといえるかもしれません。近藤選手からは、2025年も引き続きご協力いただけるとおっしゃっていただきました。これからも、近藤選手の活躍を応援しつつ、スポーツ界とも連携して、子どもたちを支えていきます。

フィリピンの幼児教育施設の建設が完了しました!!

フィリピンで行っている「みんなで守る 子どもの権利プロジェクト」。2024年度は、フィリピン南部の南ラナオ州において、幼児教育施設の建設を行ってきましたが、皆さまのご支援に支えられ、無事に建設が完了しました。

今回の支援地域は、2017年に「マラウィの戦い」と呼ばれる、フィリピン軍と過激派組織との間での激しい武力衝突が起こった地域。紛争によって多くの人々が住む場所を追われ、今も仮設住宅での生活を余儀なくされている人が少なくありません。実際に仮設住宅を訪問した日本人スタッフは、「6畳ぐらいのスペースに何家族も同居しており、安全な水もなく、非常に厳しい生活の様子でした。生き生きとした子どもたちの表情だけが救いです。」と話します。教育に関しても課題が多く、約7人に1人が小学校に通っていない状況にあります。



紛争の中心となった地域では、
いまだその爪痕が残る

今回のプロジェクトでは、義務教育へのアクセスにつながる、幼児教育施設の建設支援を行いました。対象とした幼児教育施設は、4歳、5歳を中心とした子どもたち115人が通っていて、障がいをもった子どもも通う場所。しかし、校舎や教室がなく、近隣の学校が休みのときに、小さなステージのようなスペースで活動を行っていました。スペースは子どもの人数に対して非常に狭く、壁もないため風や雨が吹き込むような環境でした。

チャイルド・ファンド・ジャパンは、子どもたちが安心して遊び、学べるように、建物1棟とトイレ、手洗い場を建設しました。建設は無事に完了し、子どもたちは雨風のしのげる屋内で過ごすことができるようになりました。

施設の引き渡し式も行い、多くの子どもたちや地域住民



完成した子どもたちのための施設

が参加。当日は、子どもたちに学用品を配布するとともに、子どもの権利について歌った歌「Sampung Karapatan (10個の権利)」も紹介し、子どもの権利啓発も行いました。引き渡し後は、管理運営が地元住民に引き継がれ、地域活動の場としても施設が使われているとのこと。

上述のとおり、マラウィの戦いによって荒廃したこの地域は、今も多くの課題を抱えています。チャイルド・ファンド・ジャパンは、本プロジェクトに引き続いて、この地域でのスポンサーシップ・プログラムによる支援を開始する予定です。紛争によって厳しい貧困に見舞われている子どもたちを、どうか皆さまの手で支えてください。



引き渡し式の様子

お知らせ

50周年特設サイトを公開しました！

1975年のフィリピンへの支援開始以来、50周年を迎えたチャイルド・ファンド・ジャパン。皆さまの温かいご支援にあためて職員一同深く感謝申し上げます。

4月1日、50周年を記念した特設サイトを公開いたしました！フィリピンなど各地域のストーリー、支援者さまのメッセージ、50年間の支援活動を数値で振り返るコーナーなど、様々なコンテンツを掲載しています。コンテンツはこれからも随時更新予定。50周年記念誌や動画なども掲載する予定です。

また、50周年を記念した募金キャンペーンも実施中。特設サイトで呼びかけをさせていただいています。これからのチャイルド・ファンド・ジャパンの活動を、皆さまに応援していただけるととても嬉しいです！



チャイルド・ファンド・ジャパン 50周年

Q 検索

<https://www.childfund.or.jp/anniversary/50th/>



お知らせ

生成AI、オンラインゲームについての調査結果がメディアに取り上げられました！

チャイルド・ファンド・ジャパンが取り組む分野の一つ「子どもの保護」。あらゆる暴力、搾取から子どもを守るための取り組みです。

フィリピンなどの各支援地域での子どもの保護はもとより、現在は日本国内での子どもの保護にも力を入れています。特に昨今は、オンラインで子どもが性的な被害に遭う事例が急増。また、生成AIの進化とともに、実在する子どもと見分けがつかないような子どもの性的画像もAIによってつくられてしまっています。

チャイルド・ファンド・ジャパンは、こうしたことから子どもたちを守るため、2つの調査結果を公開しました。一つは、生成AIによる子どもの性的画像についての意識調査。もう一つはオンラインゲームでのグルーミング(性的手なづけ)についての調査です。いずれもHPで公開していますので、ぜひご覧ください。

調査結果は、朝日新聞など各種メディアにも取り上げられました。チャイルド・ファンド・ジャパンは引き続きこうした活動

を通して世論を喚起するとともに、政治への働きかけなど、政策提言も進めていきます。

【調査結果】生成AIやディープフェイクによるいじめなど、子どもの権利侵害のリスクが浮上！対応策は、規制と自己防衛の両輪で

2025.03.05 お知らせ 活動報告
メディア掲載・プレスルーム
アドボカシー enclosure

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン（東京都杉並区、事務局長：武田勝彦）は、全国の15～79歳の男女を対象にした「生成AIと子どもの人権侵害」に関する国民意識調査を行いました。調査結果から、生成AIにより子どもの人権侵害が起ると考えている人がほとんどであり、法令規制とともにAIリテラシーなどの自己防衛力の習得を求める声がありました。

生成AIやディープフェイクから子どもの権利を守る！アドボカシー活動は、子ども・若者視点で。

急速な進化と普及を遂げた生成AIにより、大量の画像が瞬時に作成・拡散されるようになった昨今、生成AIによる子どもの性虐待コンテンツ「Child Sexual Abuse Material / シーサム」（以下、CSAM）



<https://www.childfund.or.jp/blog/tag/advocacy>

ChildFund Japan

Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

ビジョン(目標)

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

ミッション(使命)

生かし生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

チャイルド・ファンド・アライアンス

ChildFund Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う11団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

チャイルド・ファンド・ジャパンだより **スマイルズ SMILES**

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
理事長／高橋潤 事務局長／武田勝彦
TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730
E-mail: inquiry@childfund.or.jp
URL: <https://www.childfund.or.jp/>

2025年5月発行

〈デザイン〉
モスデザイン研究所
〈印刷〉
吉原印刷株式会社